



がんばれ

子育て日記

学校に行くとしゃべらなくなってしまう子



「家ではよくしゃべるけれど、学校に行くとしゃべらなくなる」という子は割と多いようです。

こういった子の多くは、子ども特有の“ハニカミ”とか“臆病”^{おくびょう}さによるものと考えられますが、このような問題は、成長しているいろいろな社会経験を積むにつれ徐々に改善されていくようなので、お父さん・お母さんはあまり心配しなくてもよいようです。

日頃からできるだけお子さんに話しかけ、家庭内でしっかりコミュニケーションを図っていくことが大切でしょう。

ただし、子どもが表でしゃべらない原因は他にもいろいろ考えられるので、どの子も一概に「放っておけばいずれ治る」と決め付けることもできないようです。

例えば、何らかの“心の傷”や“心の病気”が関わってしゃべれないということも考えられるようです。

また、学校などの社会的な場所に行くと、何らかの不安を感じてしゃべれなくなる「場面緘黙症」^{かんもくしょう}という症状もあります。実は小学校低学年の“2%”が、こういった症状を持っているとの報告もあるのです。

「場面緘黙症」の子は会話ができなくても、“表情”や“動作”^{とくちよう}ではコミュニケーションできるのが特徴で、一般的な生活行動や学習面などには問題がないようです。また、人見知りや恥ずかしがりとの大きな違いは、なだめたり励ましたりしても、なかなか勇気を奮い起こして話せるようにはならないということです。



このコーナーをここまで読まれて、もしお子さんが「心の障害に当てはまっているのでは？」と不安に思った場合、これは「精神科」や「小児精神科」などの専門家でないとその診断はできないようです。また、治療も重症度によってカウンセリングから行動訓練、薬物治療までいろいろあるようなので、これも専門家の関わりが必要となるでしょう。



いずれにせよ、お父さん・お母さんはあまり神経質になりすぎず、ゆっくり様子を見ていき、どうしても気になるようでしたら、一度専門家に相談してみてもいいのではないでしょうか。

